

環境影響評価審査書

19 山梨東線新設工事

I 総括事項

新山梨線は、静岡県小山町の新富士変電所から本県の西端を通過して山梨県都留市の甲信幹線に至る約30キロメートルにわたって50万ボルトの送電線路を建設しようとするものである。

このうち、本県を通過する区間は、静岡県との県境の明神峠から、北側の山梨県境の山稜に至る約5.4キロメートルである。

この事業は、山梨県への電力供給とあわせ、首都圏の環状送電線系統の整備を図り、電力の安定供給を目指すもので、新山梨線建設にあわせて、既設の天竜東幹線（15万4千ボルト）を新山梨線に併架し、併架後は既設送電線路を撤去することになっている。

送電線路の通過を予定しているルート一帯は、神奈川県立丹沢大山自然公園に指定されており、東側は丹沢大山国立公園に、西側は富士箱根伊豆国立公園に、また南側は静岡県の自然環境保全地域に、それぞれ接し、貴重な自然林と多様な動物相の生息域となっている。また、この地域は、明神峠、東海自然歩道等への登山や、ハイキングのレクリエーションの場として、県民を始め多くの人々に利用されてきており、自然環境の保全、風致の維持が強く求められている地域となっている。

本事業は、我が国において最大級の送電施設の建設であって、その鉄塔の規模は最大128メートルの高さとなり、ハイキングコース等からの景観が損なわれるなど、環境にかなり影響を及ぼすことになる。こうしたことから、送電線路の建設に当たっては、景観資源の保全への配慮に重点をおき、現況の自然の破壊を極力少なくすることが求められている。

今回計画されている送電線路建設のルート選定に当たっては、広域調査地域を設定し、複数の建設候補ルートを選び、これらについて景観、観光レクリエーション資源、林業経営への圧迫等の評価から、天竜東幹線沿いのルート帯を選択し、さらに、このルート帯の中から、景観、植物、レクリエーション資源等の総合指標による評価により、予測評価書案の建替適正ベルトを選定している。この建替適正ベルトの選定は、既設の天竜東幹線との併架により、送電ルートの統合化と、併架後、既設の天竜東幹線を撤去することによる環境上の利点も考慮したものと考えられるが、予測評価書案では、これら建替適正ベルト選定に当たっての検討の経過及び環境上の評価が不明確である。

このため送電線路建設という事業の性格から、環境上重視すべきと思われる景観の視点を十分に踏まえた検討の経過と、その評価を明確にする必要がある。

景観に係る対策については、この地域が県立自然公園特別地域に指定されていること等も考慮し、鉄塔の塗色の効果について検討し実施する必要がある。

計画区域一帯は、貴重な自然林と多様な動物相となっており、事業実施に際し、工事区域及び残土捨場等からの濁水が、大淵沢や土沢の溪流に流入し、水生生物に影響を及ぼす等のおそれがある。このため事業実施に当たっては、地域の植生への影響及び動物の生息環境への影響を極力少なくする必要がある。

昭和61年3月23日に風雪害により発生した神奈川県内での送電鉄塔の倒壊事故は、周辺地域の生活環境に大きな影響を及ぼした。当計画においても、供用後このような鉄塔の倒壊事故が発生した場合には、鉄塔・送電線路付近の貴重な自然林等に影響を及ぼすという環境上の問題を発生させ、また、電力供給との関係で社会的にも影響が出てくることが考えられる。

このため、送電線路については事故の経験を生かし、鉄塔の安全率を高めるなど倒壊防止の配慮をする必要がある。

現在計画されている事業に対し、計画区域一帯の環境条件を考慮して、環境影響予測評価書案について個別事項に係る審査をした結果は次のとおりであるが、環境影響予測評価書を作成するにあたっては、これらの内容を十分に踏まえ、適切な対応をする必要がある。

II 個別事項

1 廃棄物－残土

各鉄塔の基礎工事に伴い、約8,700m³の残土が発生することになっているが、この残土捨場としては、運搬車両が容易に出入り可能で、工事中、完了後も雨水による残土崩壊のおそれのない平坦地など、安定した地形の4箇所が予定されている。このうち、土沢、バラシマ沢に面している2箇所には、沢の法尻にフトン籠工を、三国林道、水ノ木幹線林道に面している2箇所には、排水溝をそれぞれ設けることとしている。また、残土捨場内には植生袋による排水溝を設け、土砂の崩落防止として、しがら工、整地後は植生ネット、植生マット及び植林地に適した樹種の植栽をし、土砂の流出防止対策を実施するとしているが、雨水流末処理が明確でない箇所があり、上流域からの雨水により、新たな流路を形成し、沢及び林床に土砂の流出や林床の浸食を来すおそれがある。

このため残土捨場からの土砂流出防止計画を細部にわたり見直し、工事中及び工事完了後に土砂、濁水が溪流に流入しないような配慮をすること。

2 動物－動物

送電線路の建設予定地周辺は、県立丹沢大山自然公園に指定され、自然林を始め学術参考保護林等貴重な自然が保たれており、林業従事者や登山者などが立ち入る以外、人圧等の影響が極めて少なく、多様な動物相となっている。特に、東海自然歩道に近い送電線路の建設予定地周辺及び掘削による残土の捨場予定地周辺は、カモシカ、シカ、ノウサギ、キツネ等の中・大型哺乳類の生息も多く認められている。また、大棚沢、土沢等に代表される山地溪流域は、ヤマメやカジカ等の魚類やトビケラ類、カワゲラ類の水生昆虫等が生息しており、清らかな水域が保たれている地域である。

このように多くの動物の生息に適した環境の中で資機材の運搬、掘削等の工事が行われることにより、騒音等が発生し、動物の生息環境に影響を及ぼすおそれがある。

このため、事業実施にあたっては、中・大型哺乳類を始めとする動物の生息への影響を極力少なくするよう、特に繁殖時期に配慮しながら、工事工程を検討するとともに、掘削等の工事に当たっては、動物の転落防止を図るうえから、工事予定区域への保護柵の設置についても検討すること。

また、工事区域及び残土捨場等からの土砂・濁水が大棚沢や土沢等の溪流に流入し、水生生物に影響を及ぼすことがないように、施工方法を検討するとともに、必要に応じて濁水対策を検討し、実施すること。

3 植物－植物

山北町西端の現存植生は、送電線路の建設予定地及びその周辺では、貴重な群落としてオオモミジガサーブナ群集、ヤマボウシーブナ群集、モミ群落、ミヤマクマワラビーシオジ群集、及び貴重な植物種としてサンショウバラ、ハコネグミ等が確認されており、山梨県に接した県立公園区域外周部の稜線近くは、ヤマボウシーブナ群集等の自然植生や比較的自生度の高い二次林となっている。また、かなりの区域がスギーヒノキ植林となっている。

評価書案によれば、鉄塔敷地周辺の工事予定区域が二次林となっている所では、樹木の伐採に際して萌芽再生二次林を促すような伐採を行うとしているが、施工の仕方によっては、根株が痛められたりして、萌芽再生が難しくなるおそれがある。

このため、事業実施にあたっては、早期に林相を回復させるため、施工方法等に配慮するとともに、対策についても検討のうえ実施する必要がある。また鉄塔敷地は恒久的に草地として管理するとしているが、整地後播種を行うにあたっては、周囲の植生と一体性を持たせるよう在来種を主体とした播種を行い、かつ早急に緑化すること。

また、残土捨場については、表土をあらかじめ確保し、工事完了後その表土の復元及び客土により植栽を実施するとしているが、表土の保管方法を含めて、完了後植栽するまでの施工の方法について明らかにすること。

さらに、鉄塔が倒壊した場合、鉄塔及び送電線路付近の樹木等は、相当程度の影響を受けることも考えられるので、鉄塔材質、構造等の安全率を高めるなど、倒壊防止の対策を実施すること。

4 景観－景観

鉄塔建設予定地一帯は、神奈川県立丹沢大山自然公園に指定されている。この地域には東海自然歩道を始めとして、各県境沿いの稜線部や沢沿いにハイキングコースが設けられていて、主に春から秋にかけて多くの登山者やハイカー等による利用がされている。

これらのコースからは、富士山、山中湖方面への展望にあわせ、丹沢山塊の自然景観を楽しむことができるが、

計画されている鉄塔建設によって丹沢山塊の景観に対して影響がでることとなる。

今回計画されている送電線路建設のルートを選定するに当たって、景観、植物、レクリエーション資源等の総合指標により建替ルートを選定しているが、本事業の性格からみて、景観面に係る環境上の評価が重点とされておらず、必ずしも適切とはいえない。また、主要な視点場として、明神峠、三国峠、高指山等の展望地点を取り上げ、これらの地点からの景観の変化をモニター写真により予測した結果、明神峠に近い鉄塔1基については、近景で目立つとして鉄塔に塗色を施し、周囲の自然景観に溶け込ませるとしているが、明神峠の北側から展望すると、塗色を計画している鉄塔のほかに、4基の鉄塔と、高指山から見えることとなる数基の鉄塔の上部がスカイラインを越えて目立ちやすいと考えられる。さらに、展望地点として比較的利用度の高い三国峠からは、西丹沢の広大な山並を背景として、その裾部に本事業中の最大高となる鉄塔等数基が見えることとなる。

このため、ルート選定に当たっては、送電線路建設という事業の性格を考慮し、環境上重視すべきと思われる景観の視点を十分に踏まえた検討の経過とその評価を明確にすること。また、計画の鉄塔全体について、視点場との位置関係や、背景となる空や山並との関係などを考慮して、塗色の効果や塗色の方法を検討し、これらの鉄塔をできる限り周囲の自然の中に溶け込ませるようにすること。